



TITLE:

稀有の大黒點

AUTHOR(S):

CITATION:

稀有の大黒點. 天界 1928, 9(94): 108-109

ISSUE DATE:

1928-12-25

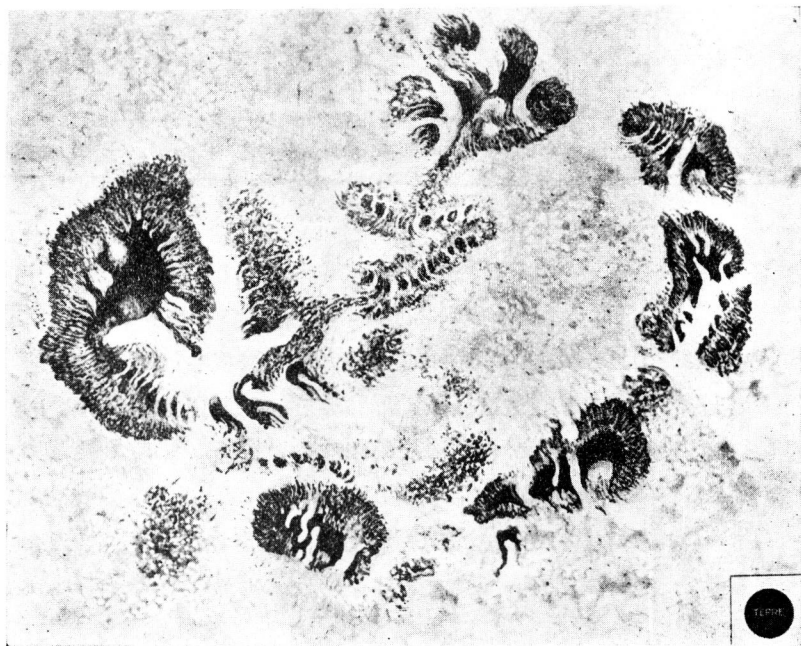
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161363>

RIGHT:

稀有の大黒點

去る九月の下旬、全世界の天文家を驚かせた此の太陽大黒點は、本誌前號（第79頁）にも記したものである。此の寫眞は當時フランス國ドンギル Donville 天文臺のルドー Lucien Rudaux 氏がデサンしたものであつて、右の角(すみ)に畫いた地球と比べて見るに、黒點が如何に巨大であり、又、如何に複雑なものであるが、知れる。



此の大黒點は、わが三澤勝衛氏の觀測によるに第1054群の黒點であつて、ブレテン第145號に據れば、去る九月22日に太陽の東縁に現はれ、漸次中央に近づくに共に、中に含まれる黒點數も増して、同月28日には此の單一群の中に含まれる黒點總數が實に52個に達したものである。太陽の中央子午線を通過したのは其の前日即ち27日であつた。

自分は之れを、東京に出張中、五藤幹事の宅で、壁面に映寫された直徑

3尺の太陽縁の中に見た。そして、尺度を之に當てて測定した結果、黒點が占めてゐる全面積は、東西に11センチ、南北に9センチ、即ち、言ひ換へれば、東西の長さは太陽直徑の七分ノ一であつて、實に200000キロメートル(地球の直徑の15倍)であることが知れる。此の一大黒點群のために、太陽表面の中でかき亂されてゐる部分は15000000000平方キロメートル、即ち太陽全表面の400分の一を占めてゐる。(山本)

オーローラを見た人より

山本先生！

久しく御無沙汰致しました。此頃は、御大典の中繼放送で忙しく御座います。

IK では、札幌市の東南約五里の地、廣島村字中之澤にて受信し、是を月寒放送所に有線にて送るのでございます。それで私は今月上旬より、廣島村にあつて種々の試験をして居ります。去る十八日、午後八時のことでした。眞暗な中を三人して歩むで居りました。一人が「火事だ！」と叫びました。驚いてその方を向きますと、ほつと地平線上に薄赤いものがみえました。私の頭はすぐに「オーローラ」——位置はこ——確にあらはれそうな位置である。懷中電燈を取り出して、スケッチをして再び忙しい仕事に取り掛つて了ひました。午後十時半頃、北天を仰いで見ましたけれども、それらしいものはもう見えませんでした。けれども九時頃までは確に此の光は存在して居りました。

そして色は薄い赤で、幾分紫がかつて居りました。生れて始めて見たオーローラ現象——夢の様に目の前にあらはれて居ります。

高さは15度位、幅は60度位で、最高部は少しく東によつて居りました。天候は快晴でした。

餘りに忙しい生活のため手紙を書くことの出来なく報告のをくれま